

5. 見えない大切なものを共有するために 自閉症スペクトラム児への支援を成功させるコツ



福岡教育大学 大学院教育学研究科 教授
教職実践専攻
生徒指導・教育相談リーダーコース担当

納富 恵子 (のうとみ けいこ)

1983年 九州大学医学部卒業、同大学精神科神経科入局
1990年 福岡教育大学教育学部障害児教育講座講師
1994年 福岡教育大学教育学部障害児教育講座助教授
2001年 福岡教育大学教育学部障害児教育講座教授
2009年 福岡教育大学大学院教育学研究科教授

私は、28年前に九州大学医学部精神科に入局後、佐賀の国立肥前療養所で研修医として訓練を受けた。最前線での精神科臨床研修とともに、関心を持っていた小児精神医学の経験を積むため、上司のすすめでくじゅう高原の自閉症キャンプに参加した。医療班としての参加でなく、教育学部の学生たちと、コミュニケーションをとることが難しい自閉症の女の子とキャンプの日々を過ごした。他にもエネルギーいっぱいの子、明るく大好きな歌を得意そうに歌いキャンプを盛りあげる子、静かで何を考えているのかわからない子、様々な子どもたちと阿蘇の自然の中で過ごした。同じ自閉症の診断がついていても、一人一人違う個性があり、私は彼らの魅力にとりつかれていった。「もっと彼らのことがわかっていたら楽しく過ごせるのに・・・もっとうまくコミュニケーションがとれたらサポートする学生も安心できるのに・・・」。充実感と疑問を残しキャンプは終わった。

当時は、子育てが原因でおこるという誤解がまだ残っていたために、自閉症という診断は、家族に罪悪感をもたらしていた。また、原因についても科学的な知見は少なく、その症状形成のメカニズムは解明されておらず、謎に満ちた疾患でもあった。だからこそ診断を行う医師は、保護者に明確な見通しと、できれば未来に希望がもてる効果的な治療の提案を行うことが必要だと考えた。今回は、知的な遅れのない自閉症やアスペルガーも含む自閉症スペクトラム（ASD）の子どもたちへの、臨床経験と研究から学んできた「支援を成功させるコツ」を紹介したい。

当日取り上げる内容は、以下を予定している。

○何故、今、ASDのある子どもたちへの教育が重要なのか？

ロンドン大学教育学研究所セミナー（2010）の内容紹介

○ASDという障害の本質は？

早期の社会性発達の障害と症状把握と診断

日本自閉症協会作成 DVD「自閉症の子どもたち」の紹介
家族への支援

○障害特性をふまえた支援のコツ 見えない大切なものやことを視覚化する

自閉症の文化

構造化された指導 (物理的構造化・スケジュール・ワークシステム・教材の組織化)

合言葉は、シンプル・クリア・ビジュアル

英国自閉症協会 SPELLの原則

通常学級での支援の実例

○学際的ネットワークの必要性

参考

○福岡県教育センター 特別支援教育

「はじめよう自閉症の子どもへの支援」

http://www.educ.pref.fukuoka.jp/pubmag/pub/detail.aspx?c_id=212&id=31&pg=1&mst=9

「すすめよう自閉症の子どもへの支援」

http://www.educ.pref.fukuoka.jp/pubmag/pub/detail.aspx?c_id=212&id=17&pg=1&mst=11

○独立行政法人 日本学生支援機構

http://www.jasso.go.jp/s_kyushu/sienhoukoku.html

http://www.jasso.go.jp/tokubetsu_shien/seminar.html

○日本自閉症協会

DVD 自閉症のこどもたち

<http://www.autism.or.jp/book05/dvd1.htm>